

いろうざき

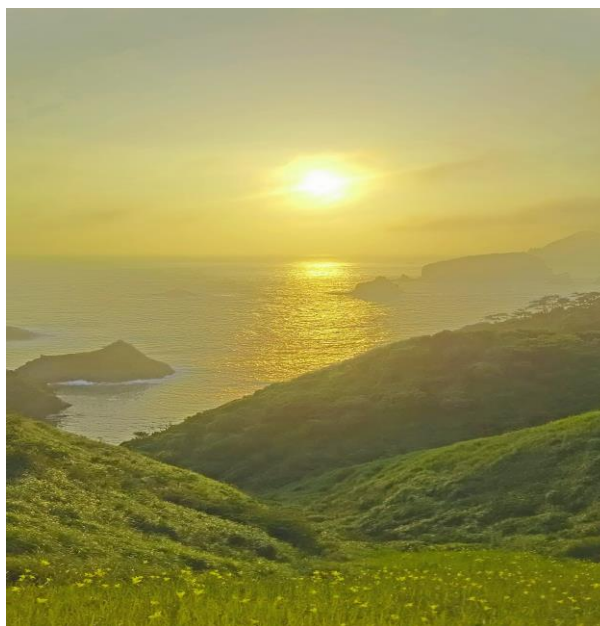
みさかちく

石廊崎周辺及び三坂地区

心に残る伊豆半島最南端の雄大な自然景観



① 美しい地層が広がる入間千畳敷



② 見晴らしのいい景色を楽しむユウスゲ公園



③ 伊豆半島最南端の石廊崎の雄大な海岸景観

所在地	静岡県賀茂郡南伊豆町石廊崎及び三坂地区
面積	2200ha
施設	石廊崎オーシャンパーク・石廊崎灯台・石室神社・熊野神社・ユウスゲ公園・あいあい岬・入間千畳敷・ヒリゾ浜
アクセス	伊豆急下田駅からバス約1時間

自然

石廊崎周辺の海岸線の多くは、海底火山から噴出した火山灰や溶岩からできている。入間千畳敷は、海底に降り積もった火山灰や軽石からなる美しい地層が広がる。それぞれの海岸で火山灰や溶岩が、長年の波と風の侵食により作り出されたありのままの雄大な景色を一望できる。

歴史

石室神社の言い伝えとして、石廊崎の沖は古くから航海における難所であり、江戸へ向かう商船が沖合で大波にあっていた。石廊権現に波を抑えてくださいと頼み、無事に江戸に到着できたという伝説がある。断崖絶壁に建つ石室神社はジオサイトになっている。石廊崎周辺を含む伊豆半島は、平成31年4月ユネスコ世界ジオパークに認定された。

観光

平成31年4月より「石廊崎オーシャンパーク」がオープンし、イベント開催地として活躍することが増えている。敷地内には、石廊崎灯台や石室神社、熊野神社があり、伊豆半島最南端の景観を楽しむ観光スポットがある。また、初夏から夏の時期には、ユウスゲ公園のユウスゲが咲くことで幻想的な風景を見ることができ、中木ではヒリゾ浜での海水浴を目的とした観光客が多く、南伊豆町の夏を代表する観光地となっている。

2. 対象エリアの位置図



2. エリア図



①ありのままが残る伊豆の秘境

(1) 自然



美しい地層が広がる「入間千畳敷」

南伊豆町入間港から徒歩40分。伊豆の秘境ともいえる入間千畳敷には海底に降り積もった火山灰や軽石からなる美しい地層が広がり、ありのままの自然景観が残る。千畳敷の目の前にそびえる断崖には地下から上昇してきたマグマが白い火山灰等の地層を断切って冷え固まった痕跡があり、迫力ある景観を作り出している。町内小中学生の総合学習や理科の授業を使ったジオパーク学習や観光客を対象としたジオツアーで活用されており、ジオガイドが地形の成り立ちや歴史を案内している。

ありのままの自然景観が残るエリアであるが、千畳敷にたどり着くまでの道のりは険しく、初心者には難度が高い。それに加え、気候変動等の影響により、歩道の滑落、崩落の危険があり安全性は十分確保されていない。また、防護柵は擬木や木製のものが混在するなど統一感がない。林道の入口には、人工的な色合いの門が設置されており一般来訪者の車両での通行はできない。今後、新たな観光地として活用していくうえで、管理しやすく周辺の景観に合わせた色彩の門を整備していく必要がある。

(2) 暮らし



赤い屋根が並ぶ入間集落

千畳敷のある入間集落は、赤い瓦屋根の家の割合が多く、その理由として、昔の大火があった。家の再建を行う際、屋根瓦の海からの塩害を防ぐため塩に強い素材を使った赤い屋根瓦が使用されている。その中で、観光トイレは老朽化が進み、構造も古めかしく、擬木が外壁に貼られていたり周辺集落景観と調和してない。また、入間集落へ向かうまでのガードレールは手作業で上から塗装されているため、色彩がバラバラで統一感がない。入間集落の景観を損ねないような、色彩、構造に配慮した観光トイレやガードレールの整備が必要。

〈景観形成の主な課題〉

- ・安全性と自然景観への配慮が足りない歩道
- ・入間集落と調和していない観光トイレ
- ・人工的な色彩の門と色彩に統一感がないガードレール

②見晴らしのいい景色を楽しむ

(1) 自然



かれんに咲くユウスゲ

奥石廊崎のユウスゲ公園には、山の斜面にユウスゲが群生していて、毎年6月下旬から8月中旬頃の夕暮れから咲き始め、翌日の午前中には花を閉じる。かれんに咲き、辺りに幻想的な雰囲気醸し出し、夏の風物詩になっている。また、冬になると空気の澄んだ夜空一面に星が広がり、海上には船が往来する光が夜間を通してあり、星と船の光が夜の海岸景観の風景を映し出す。見晴らしのいい景色を見ることができるスポットだが、散策路の舗装やベンチの色彩が海岸景観を損ねる色彩であったり、海風等の影響で現在配置されている看板やベンチが破損して朽ちてしまったり、老朽化が目立つため視点場の再整備が必要。

(2) 眺望



海が一望できるロケーション

ユウスゲ公園の丘には「出会いの鐘」といわれるモニュメントがある。後ろに広がる雄大な海を一望ことができ、多くの観光客が出会いの鐘と海をバックに記念撮影をしている。また、県道下田石廊崎線は海沿いを走ることができるため海岸景観を眺めながらの移動ができる。素晴らしい景観や記念撮影する人が増えているなか、視点場周辺や通路に雑草や雑木が生い茂ってしまう。ユウスゲ公園は年2回の草刈りを実施しているが、夏場などはすぐに伸びてしまう。県道沿いも手入れが行き届いていなく、海岸景観を損ねている。

(3) 観光



透明度の高いマリンスポット

南伊豆町の夏を代表するマリンスポットとして有名なヒリゾ浜。透明度の高い海を楽しみに毎年多くの観光客が訪れる。そのヒリゾ浜の出発地となる中木港周辺には、マグマが冷え固まる際に収縮してできる柱状の岩「柱状節理」があり、迫力ある景観が広がっている。

目の前に広がる柱状節理の景観を楽しむのには、落石に注意してもらう必要がある。年1回の点検を実施するも自然資源のため年に数回落石がある。現在も注意を促すよう看板を設置しているが、見た目や構造がバラバラで色彩も統一されていない。安全に気を付けながら見てもらうため、柱状節理の景観を妨げない色彩と配置に配慮した注意喚起看板を整備することが必要である。

〈景観形成の主な課題〉

- ・破損したベンチや看板が景観を邪魔している
- ・海岸景観を座って眺められる視点場における施設の老朽化
- ・海岸沿道を雑草や雑木が妨げている
- ・自然景観を安全に楽しんでもらうための注意喚起の不足

③伊豆半島最南端の雄大な海岸景観

(1)観光・眺望



伊豆最南端のダイナミックな海岸景観と観光地

伊豆半島最南端の位置からは、**海底火山が作りだした荒々しく雄大な景色を一望できる**。海底火山が作りだした現在の地形は、波風に侵食され陸と海とが入り組んだ海岸となっている。平成31年4月にオープンした石廊崎オーシャンパークは、休憩棟や駐車場等の整備が行われたため、**今までより身近に海岸景観を楽しめるようになった**。

石廊崎オーシャンパークができたことにより駐車場が整備されたが、駐車場管理小屋は老朽化が進んでいる。また、駐車場と通路を仕切る赤いカラーコーンは目立つものとなっている。

夜の景色は、石廊崎灯台が照らした海岸景観を望むことができる。夜の景観を見ながら散策するには夜間照明等が不足しているため、程よい明るさの照明で灯台の灯りや船の光を妨げないようなものが必要。

(2)歴史



歴史的な景観資源

石廊崎港から参道を上ると、石廊崎灯台の先に**石室神社と熊野神社があり不思議な景観を見ることができる**。石室神社は、崖の中にめり込んでいる不思議な神社であり、社殿の基礎になっている帆柱は伊豆の七不思議に数えられている。また、先端の位置にある熊野神社には、離れ離れの男女が結ばれた伝説があり縁結びの神が祀られている。石廊崎オーシャンパークが開園したことで多くの人が石室神社、熊野神社まで足を運んでおり、回遊する動きが生まれている。

石廊崎港から神社にかけての高低差のある参道は、石廊崎の港の風景や波風で荒々しく削られ自然が作り出した岩場を見ることができる。参道を上がり、休憩しながらその景色を楽しむためのベンチ等の休憩設備が不足している。

〈景観形成の主な課題〉

- ・観光施設と調和していない駐車場設備
- ・夜間利用に向けた安全性の整備が足りない
- ・参道の休憩設備の不足

心に残る伊豆半島最南端の雄大な自然景観

地域住民の視点

- ・沿道の雑木等の処理
- ・伊豆半島最南端の特色を生かす
- ・安心、安全に迫力ある景観を楽しむ場づくり
- ・景観の維持管理に人工をかけることができない

有識者の視点

- ・自然景観を邪魔しない整備
- ・様々な人が楽しめるように整備
- ・周辺地域との調和を図る
- ・各々整備を進めていくのではなく規則やガイドラインに沿って整備していく

目標1

ジオを活かし人々にぎわう
海岸景観づくり



景観づくり方針

- ①自然景観に配慮した景観づくり
- ②地域住民と観光客が過ごしやすい景観づくり

目標2

豊かな眺望景観を眺めていたくなる
景観づくり



景観づくり方針

- ①長い時間景色を楽しめる視点場づくり

対象エリアへの入口・アクセス部における景観形成

目標1 ジオを活かし人々にぎわう海岸景観づくり

方針1-① 自然景観に配慮した景観づくり

	取組み	実施主体
短期	①自然景観に配慮した案内看板の設置 「屋外広告物やサインの設置の際には眺望を遮らない」 ②安全性を確保するための注意喚起看板の設置 「屋外広告物やサインの設置の際には眺望を遮らない」 ③入間千畳敷までの自然を感じて安全に歩ける歩道・防護柵の整備 「安全性や機能性を確保できる必要最低限ですっきりとした形態意匠」 ④ユウスゲを保全し散策できる通路の整備 ⑤観光施設に調和した駐車場設備の見直しの検討	●町 ●町 ●町・地元区 ●町 ●地元区
中長期	⑥気軽に入間千畳敷を訪れるための車両通路の修景	●町・地元区

目標1 ジオを活かし人々にぎわう海岸景観づくり

方針1-② 地域住民と観光客が過ごしやすい景観づくり

	取組み	実施主体
短期	⑦海岸景観を楽しみながら歩ける参道づくり ⑧周辺景観に調和した観光トイレの整備 「色彩及びデザインはそれ自体が目立つものとなっていない」 ⑨入間地区に出入りする道路の修景やガードレール等の色彩配慮 「安全性や機能性を確保できる必要最低限ですっきりとした形態意匠」 ⑩地元小中学生に向けた自然資源を活用した授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●町 ●町 ●県・町・地元区 ●町・ジオガイド
中長期	⑪車内から海岸景観を見れるような沿道景観づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●県・町

目標2 豊かな眺望景観を眺めていたくなる景観づくり

方針2-① 長い時間景色を楽しめる視点場づくり

	取組み	実施主体
短期	⑫一面に広がる海を眺められるベンチの設置 「ベンチから見せるものを意識して、ベンチの配置や向きを計画する」	●町
	⑬夜間の海岸景観を楽しむための照明施設の整備	●町
中長期	⑭景観を楽しめる視点場の手入れ	●町

対象エリアの入口・アクセス部における景観形成

当該エリアの入口、あるいはアクセス道路となる箇所（区間）で実施する景観形成を以下に示します。

	取組み	実施主体
短期	⑮観光地へのサイン看板の設置 「屋外広告物やサインの設置の際には眺望を遮らない」	●町
	⑯観光トイレ廃止への検討	●町・地元区
中長期	⑰観光地までの沿道の雑木等の処理	●県・町

7. 景観施策(案)のイメージ図



7. 景観施策(案)のイメージ図



7. 景観施策(案)のイメージ図



7. 景観施策(案)のイメージ図

